元四六册九百至六册八百

滿州日報

○報價目
每月收取一角代賣所及送報人幷無分毫加增
○告白刊例
一行五號二十一字起碼登一日者每行二角每登十日行一角五分登月者每行每日一角登長年者價當面議
從減　每張四百文

飯塚工程局材料出售

啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司商訂以日本輪船運到各種木料品質精良久已馳名四遠以之架造屋宅及製各色傢具無不合宜且價值格外從廉克己凡中外士商賜顧者請來本埠東營口元神廟街本工程局面議不悞茲本十新到各種木料東洋炸子貨異價實以應各主顧局急之需　本主人啓

特別廣告

資本金貳千四百萬圓
積立金一千壹百五拾萬圓
本支店出張所
橫濱　神戸　東京　長崎　大阪
倫動　里昂　紐育　桑港　布哇
孟買　香港　上海　天津　北京
大連　旅順　奉天　芝罘　鐵嶺
電話　十番　支配人室　百八番　事務室
橫濱正金銀行牛莊支店

日本郵船株式會社 瀛船出帆廣告

山東丸　大沽、芝罘、門司、神戸行　四月一日出發
相模丸　大沽、芝罘、仁川、釜山、長崎、門司、神戸行　四月十日發
橫濱丸　大沽、芝罘、門司、神戸行　四月五日發

乘船切符發賣は出帆前三時間マデ
未明出帆ノ分ハ前日午後五時マデ
營口代理店　旗昌洋行（電話廿六番）

大阪商船株式會社 營口瀛船出帆廣告

潮州丸　門司　神戸行　四月四日着　仝七日出帆
東營口公園地横
ブッシュ兄弟商會
代理　遠來洋行（電話二十三）

瀛船出帆廣告

……丸　三月卅一日入港　四月三日門司、長崎行
四月二日入港　四月五日門司、神戸行
……月二日入港
……四日入港　……日芝罘行
……竜口、登州府
……行船舶部

宅合名會社分莊

本號前在營口東營元神廟街自造日本酒澤龜印幷其名聲已傳播於滿洲全地矣今又擬在西營子老爺閣街開設分設支店一所發賣綿絲粗布火柴絲布絨衣商標布手巾花巾東洋綠子洋燒鹽表貨物俱全而價值尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請辱臨爲幸

運輸部
遠般特得官准開設火車轉運行於東西兩店幷牛家屯分此殊以李吉甫田彫超等之華人欲活細心以責任欲膺事與本業賜顧幸甚
總司理人田中賴之助謹白　電話　東店五　西店二公

東盛和

本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行並滙兌銀錢兼代客經理買賣租船裝運事宜營口廣東兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寛大凡裝卸貨物極爲利便囤貯油餅豆米麥更爲合宜兼置有輪船一艘名域多利能載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水脚棧租格外從廉　貴客賜顧請到小號面議是荷
總司理人葉亮卿謹白

東永茂

機器油房在營口創辦油捧生意多年以本營業非祇做油房壹事及經理買賣雜貨布疋等物幷代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚遐邇知之
正理事潘玉田　副理事金德魁　設在營口西北街路南

西義順

本號開設營口西街老爺閣前路南警乙第五號專管裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寬大凡中外士商賜顧者請……招牌決不致悞
本主人敬啓

仁裕號

保裝運各物火輪船生意兼賣各料洋什貨種石等此佈
營口西大廟街路北警乙第十三號

丸三洋行分莊

啓者本行開設於元神廟街精工自造羊肚手巾東洋緊身洋式襪子以及各樣雜貨俱全無不精美價値格外從廉賜顧者請光臨本行面閲是幸
丸三洋行分莊謹啓

永順洋行

本行在東京開設三百餘年專辦布疋此次得大日本政府特許般運各色布疋手巾綢緞綿子法蘭絨等貨來埠發售顏色鮮明俱照中國土布家機自染決不退色價亦格外公道官商光顧請到本行面議
西北街　東櫃（電話九十五番）
西義順樓內　西櫃（電話架設中）

代代木烟公司

本行專售　日本官造紙烟　星象牌（斯達）櫻花牌（撥利）百合花牌（利利）均已馳名內外茲特選上等烟料加工精製雙仙鶴牌（隆沽來厰）淸香撲鼻佳美適口而價値極廉　請尊欲請可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元採買庶不致誤謹此廣告

本行瀛船

鹿耶山丸　穎朝丸　專往東洋各埠

啓者本行開設在東營口輪船代理店海上火險公司及報客稅已有年矣今承關東總督府之特准開設東清鐵路公司運送貨物自牛家屯大連至昌圖府均有分棧大連鐵嶺另有分行幷各有中國人辦事今又設理雜貨生意專辦上等石炭棉花火柴洋布旭牌卑酒日本清酒一概俱全有清國人執事如蒙中外士商光顧請來元神廟街松茂洋行（電話五十二番）

三井

電話　第六十六號　第九十一號

啓者本行開創在中外通商各埠已有年歷所售棉紗、棉布、火柴、煤炭糖、海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近如蒙各商光顧請駕臨是荷

○發售新到洋白糖

倉庫部

今回倉庫所在地（靑堆子精搗場上隣り河岸）の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は同所へ御照會被下度願上候
（電話百二十八号）

經理

○明治火險公司
本公司開立已久分行上海、香港、天津、各地方中外馳名一概章程仿英例一式遇事克已秉公以廣招徠有願保火險者請至本行面議

○發售日本白米

○東京水險公司
啓者本公司開設在三井洋行內已久實存資本百五十萬元、分行、新加坡、倫敦、孟買、天津、上海、香港、各地方中外馳名一概章程仿英例一式遇事克已秉公以廣招徠有願保平安、水漬、兵險者、請駕至本行面議

洋行

電話　第六十六號　第九十一號

東清鐵道 裕和盛運輸局

（電話八十）
在東營口西北街旗昌洋行對門

啓者本號向在日本長崎開設數十年幷分店在朝鮮國漢城仁川木浦旅順烟臺營口鐵嶺等處專賣中外雜貨疋頭食物器具酒烟代客報關裝船裝車今又承辦東清鐵道運輸局代客裝運貨物各車站均設分局格外周到不悞主顧
總司理人　周鶴雲
運輸部主任　高濱麟太郎　謹啓

營口商業學校招入學生

宗旨　造成辦公實業家
學額　五十名
學科　修身、漢文、詞章、習字、算術、商律、簿記、理財、商品、商業學、圖書、地理、歷史、理化、日語、英語、體操
資格　十五歲以上文理明通者
學費　特免惟寄宿者生自備
入學　陰曆三月初一日
夜班　專爲有志向學而白晝忙於謀生者計每晩兩點鐘之功課授以漢文算術商業學日語以一年爲限
○欲覽各樣詳細章程可到本校索閲

本學校由各商公同籌款……因添建樓宇增設講堂需器具種々皆備現擬招入第二次學生

丸重洋行

一、東淸鐵道貨物取扱
一、貨物集配
一、瀛車貨物積卸シ

右は安全、速達、誠實、廉價を旨とし精々御便宜を計り申候間多少に拘はらず御出荷奉願候
關東總督府特許　丸重洋行
營口西北街（電話……）
牛家屯停車場構內（電話六四）

材木販賣 荒物 秋田洋行

營口永世街第一八四號中野町
本店　下關　秋田寅之輔商店

稅關手續

一船舶代理
一貨物取扱
一委托販賣

弊公司近年開業以來引續き營業務ヲ擴張シ艀船、市內貨物運搬、貨物保管等確實敏速ヲ旨トシ殊ニ爲替付荷物及諸雜費等御依頼ニ應シ御立換可仕尙其他精々御便利ヲ相計リ可申候間倍舊御用仰付ラレ度願上候也
營口英國領事館東首　綏定門街第五〇
三仁公司（電話一五〇號）
小島榮歲

上海 中井洋行

專運日本各式紙料

本行開設已歷多年曾與日本製造名廠訂有專銷之約凡新聞紙料印書籍各式紙料莊票包棉紗料草板紙張印本機器連史紙紗彩印字連墨具其他各件紙料一切統由本行出售　貴客惠顧請至江西路五十一號門牌可也
中井洋行

自造 煉瓦●瓦 並に各種石材販賣

營口靑堆子
加州組（電話八十六番）

●雜貨卸小賣商 附日用食料品
●菓子製造販賣商
●委托販賣商
●土木建築受負業
●瀛車積運送業

新民府孫家街
東洋號

太古輪船公司

啓者本公司自派溫州牛莊兩輪專走營口登州龍口一往一來接續不斷搭客配貨均由本行瑪頭上落甚屬利便水脚素來公平船上應酬搭客無不週到歷經數年遠近馳名知者稱便用登報端以期廣告
營口　太古輪船公司

生徒募集

今般本院に於て在留邦人子弟の爲め尋常小學部を設置し員に督促書を差出したるも尚遺漏の分もある可くに付特に廣告候條學齡者は至急本院へ照合し入學手續を爲すへし
營口　瀛華實學院

營口瀛華實學院招入學生

本學院肄業諸生頗著成效惟是從去歲常有陸續來學者本學院雖亦收入然班次不齊以致授課之時諸多未便茲因添設樓宇地勢寬宏學生宿舍各種器具無一不備現擬招入學生候額數充足即行擇期一律入學有志願學者遇到本學院報名每日上午九點鐘至下午兩點過期不候特白
營口瀛華實學院

▲上行車時刻表
▲下行車時刻表
稅關手續
來る四月一日の日曜日より今後每日

…報

…招待　英國海軍…本海軍將校及び陸奥伯…り著名なる英國海軍々人…に列せり

…議調印の豫期　アル…ンに於けるモロッコ會議の列席者は來…日を以て議定書に調印せらるへきを豫

…ノカルストの珍事　ブカ…ストの學生は國民演劇場に於て佛語を以て騎兵か暴徒を攻撃する悲劇を演したるに反抗して亂暴なる示威運動を爲し人民側に於ては婦人小兒を合せて二百五十名の負傷者を生し巡査及ひ兵士の負傷せるもの百五十名に達し二名の巡査は其後死去せり

●英國の干渉とナタルの激昂

英國殖民地ナタル政府は曩きに巡査を殺害せる土人に死刑を宣告し金曜日を以て處刑することに決定せしか本國殖民次官チョーチル氏は陛下の叡慮を伺ふを以て處刑を延期すへき旨の訓電を發せり然るにナタル政府の首相スミス氏は處刑の延期を拒絶せし爲め知事兼司令長官マカラマ大佐は特權を以て處刑を延せり之れか爲めにスミス内閣は辭職するに至り本國政府の干渉に對してナタル人心甚たしく激昂せり

（以上三月三十日發電）

雜報

●大連通信（廿六日發）

▲滿洲博覽會一寸行惱の光景を呈し申候、然し何とか名義變更の下に開設さるへきは信して疑はす、一体世間は關東州民政署之れか主唱者のごとく誤解する者なきにあらすと雖も否らす、即ち民政長官東上の砌り之か發起者たる大阪、神戸、京都、名古屋、東京の五商業會議所代表者か長官に贊成を需めたるに應して同意を表したるに過きす、然し民政署は飽迄之れか成立に斡旋するを躊躇せさるものにして奉天の位置外交上の故障あらはとせは寧しろ大連に開催爲すこと甚麼にやと迄創立委員に議りたるとの事聞及ひ候或は名は共進會と附せらるゝか又は陳列館と命名せらるゝか無能く有を生すへきこと疑を容ざる次第に御座候

▲當地大山通浪速町角に大連競賣場なるもの出來申候要するに商機一轉の一現象とも察し申へき歟即ち軍政時代は去りて眞面目なる商業時代に入る其變遷を現實に表明する所以の次第に御座候、本月十一日に開業一六の日を以て競賣市場は開催さる、其市日に於て建られたる相場を以て次市日迄の相場として同市場に委託されたる商品を販賣いたし居候、其競賣手數料は賣物代金百圓未滿百分の十、百圓以上は七、千圓以上は五、五千圓以上は三といふ比例に御座候、距落し代金は即時現品受渡しを爲す物の外は直に手附金として代金十分一以上を差入置三日以内に取引を結了するものとして三日を過き殘金支拂を爲さゝる時は手附金を沒收し賣買契約を無効と爲すとの條規を相設け居る由に御座候、十一日の賣買高五百圓、十六日同上、廿日の臨時に於て千圓、二十一日三百圓の賣買高ありとの事に御座候、多くは閉店歸國者若くは轉業者の之れに委托して賣買を爲さしむるものに係り大槩元價の半分以下の取引らしく見受けられ候、隨分二束三文の見限物も有之候との事に候

▲本派本願寺か今回の戰役に關し軍隊慰問に努力したる事は衆の既に已に認むる所に御座候、而して凱旋や終了せり、自然同本願寺の各地慰問部は閉鎖さるへき勿論の事に御座候聞處に據れは同本願寺は慰問部閉鎖と同時に弘く開教の事に從ふ由に御座候、既に安東縣の如きは田中行善師ありて此彼岸會を以て開教即ち弘く布教傳導に從ふへく其序幕を切つて落したりとの事に候、當大連は本派本願寺滿洲開教の中樞と相成可申筈との事にして別院新築さるへく目今之れか計畫中にあり、地は現下午砲臺の在る附近の高地にトせられ地域三万坪、而して建造物建坪は本堂三百坪、書院六十三坪、對面所百二十六坪、輪番所六十三坪、庫裡六十坪、宗務廳百五坪、學寮二百十坪、宿舍百二十六坪、厨房百八坪、本寮二十八坪、敎堂四十二坪、鐘樓十六坪、塔二十五坪、寳藏二十四坪等にして以上の建設費豫算十三万一千五圓、之れに附屬するに役僧住宅三十六坪一棟六十坪一棟、四十四坪一棟此建設豫算九千二百五十圓との事に候、今尚其土地は陸軍の管轄に屬す、之れか權利の民政署に移轉すると同時に地形にも着手する筈なりとの事に候、合計の建築費十四万圓壯嚴なる一寺院や建設され以て大連の一異觀を現出する事と想像被致候、同本願寺開教位置は當大連、營口は勿論、旅順、柳樹屯、遼陽、奉天、撫順、鐵嶺、安東縣、昌圖等にして更らに進んで長春、吉林方面へも漸次布教開始役僧錫を飛すことゝ相成可申との事に御座候

▲三井物産會社は過般當地より豆粕三万を内地へ積出し申候今回目下碇泊中の頼朝丸に四万の豆粕を積込中明後日積切出帆との事に候（在大連安齋生）

●營口屠畜場（附肉食界の情況）

▲營口屠畜場は軍政署の直轄にして營利の主義でなく要は密殺豫防と撿病的とが目的であるが屠畜者は單簡なる手續に依り少額の手數料を納付するのみにて勝手氣儘に獸醫監督の下に屠殺する事を得る又或場合には特に免料屠殺の時もある本年も淸曆正月前に多數の屠殺あるを豫期して十餘日間の無料屠殺を許された其際の屠獸四千六百七十九頭其免料額二千三百八十一圓六十錢の多きに達した之を見ても軍政署が如何に一般居留民に安心と便利を與へつゝあるかゞ想像される撿査は生体に於ても肉質に於ても嚴重である故肉食者は安心して精良の獸肉を需用する事が得られる

▲屠殺法は內地と略同一なれ共獨り牛羊のみは異なる點がある此獸は淸人に於ては回回敎徒間に重に食用せらるゝ事と同敎の僧侶が齋戒沐浴して單簡な經文を念誦しつゝ屠る同敎徒は之を非常なる淸潔のものとして食用し他獸は決して食用せぬのみならず他人の屠殺せし者は牛羊でも食用せぬ之れが屠殺法と販路の異點である

▲屠殺數は昨年中の者二万五千六百頭餘之を戶數に割當つれば一戶に付約二頭弱平均の多量を食用せし割合である本年の正月前免料の際丈けの者にても一戶に半頭以上の量に昇る其中豚は大約八分を占め他は牛羊雜畜である現今は每日豚八十頭內外其他は二十頭位である

▲產地は牛にありては冬季は蒙古產の者が多く稀には天津山海關邊より輸入する事もある夏季は山東省其他の產地よりも輸入せらる蒙古產のものは躰軀倭小にて二百斤內外其他は皆偉大にして肥滿斤數も六七百斤以上のものもあつて滋養分も味も內地の者に劣らぬ筈である

▲豚は支那の各所に飼養せらるゝ故一定の場所より來らずとすれ共最良なるものは西錦州のものにして價格は比較的高價である体は少數小なり其他關里洛亭に產するもの多數に屠場に來る年齡は一歲內外にして体量の多きものは三十貫にも及ぶものが多い總じて支那種豚は蕃殖の上に於ても滋養の上に於ても世界に稱美せられて居るのである

▲營業者は市內に五十戶程ありて豚肉商は其半數である同商の重なる者は一日七八頭乃至十頭餘も居りて皆小賣にするといふ

▲調理法は此國にありては中々進步して居る樣子で獨り肉質のみでなく內臟も種々の調進法に據りて最良の食膳に供せらるゝ又血液の一部分も食用せらるゝのである故に內臟にても割合に直段が安くない

▲街頭の肉店を見るに支那人は肉を切賣するに販賣高を一ト塊として賣り日本の肉商は肉を細切して賣るのが通例である殊に日本人の店は肉中の部や廢索物を悉く除き去りて販賣するから從て滋養分も多く其便利だ又截り方によりても硬軟の差もある之等は日本肉店の方が優りて居る點である

內閣首相西園寺公望侯

●山本大將の出發

先日來旅大方面を視察中なりし山本海軍大將には其歸途或は當營口へも立寄らるへきやの巷說ありしも今回の視察は全く軍事上の用向なれは單に旅順大連の視察を終へ去る二十七日滿洲丸に搭し一直韓國鎭海灣に向はれたりといふ

●旅順彈藥庫の爆發

旅順歸來者の談に依れば同地海軍衞兵隊の東方に當れる陸軍火藥庫は去る二十七日午後五時頃俄然爆發し凄慘の聲天地を震動し一時市中の大狼狽を演じたる由なるが其原因に就ては未だ詳ならずといふ丙午の災厄竟に臺灣を襲ひ今や漸く北進して新領土を侵さんとするか物騷々々

●奉天の總領事

奉天に總領事館を設置するとは我政府の意向にして已に其人選濟みと爲れる由は東電の傳ふる所なるが其果して何人が任命せらるべきかは公にせられざるも巷說の傳ふる所に依れば天津總領事伊集院氏が今回歸朝の途に上るは或は奉天總領事に擬せられ居るにも非ずやと爲す者之れ無きに非ず而も是れ素と揣摩の說にして固より確說たるにはあらず要するに滿洲には今後開放せらるへき各要市に設置すへき領事館若しくは領事分館も少からず已に安東縣の如き近日中に任命を見るへしといへは結局從來淸國內に駐在せる領事中二三の移動を見ることと爲るへしと云ふ

●遼陽軍隊慰勞部統計

在遼陽基督靑年倶樂部なる軍隊慰勞部が昨三十八年六月七日開場以來三十九年三月十五日に至る慰勞統計左の如しといふ

(1)	書簡材料總計	九十三万九千七百二十枚
	內譯　野紙	三十九万八千五百枚
	封筒	十六万六千八百四十枚
	端書	三十七万四千三百八十枚
(2)	給與書籍及小冊子	十万六千五百八十五冊
(3)	書簡材料を受けし人員	四十万五千六百五十三人
(4)	ボタン其他を受けし人員	九千七百五十人
(5)	理髮せし人員	一万三百人
(6)	貸本人員	五千五十九人
(7)	出張慰問度數	百四十二度
(8)	宗敎的集會	六十九回
(9)	其他の集會	百三十四回
(0)	來場者	十六万二千百人
(11)	凱旋軍隊に寄贈せし新聞	一万一千八百五枚

●能登丸積荷　昨朝未明出航門司經由神戶行の能登丸にて神戶揚豆粕二万三千ビルグを搭載せりと乘客一等三人三等十七人なりと云ふ

●山東丸揚荷　一昨日入港日本郵船會社滊船山東丸にて神戶より雜貨五千〇四十個輸入せり其主なるは昆布一三〇〇、材木二二五九、燐寸三〇〇紙一八三、ビール三〇〇、雜貨九六八等なり又船客は二等一人三等十九人なりと云ふ因に同船は風波の爲め入港大に遲延し爲に定期より六日間計り遲れたるを以て積荷及び出發日は主務省へ電報にて照會中なりと云ふ

●橫濱丸の入港豫定　日本郵船會社滊船橫濱丸本日午前中に入港すへき電報代理店旗昌洋行に入電ありたりと云ふ

●本願寺の日曜說敎　當地永世街本願寺出張所に於ては定例に依り本日午後一時及び七時（營口時間）の兩回日曜說敎を開きて（宗敎と實在）との演題に就て寺本布敎師より說敎あるよしなり

□□□

●鹿爪錄　原稿ヶ盲斷的に改竄せられて迷惑を感する例は少くない嘗て自分が烏拉地俄斯德に居て或新聞に通信をした事がある其時同地のダーリニイ、ウォストークといふ新聞の記事を引用してダーリニイ、ウォストークが斯う書いて居るといふ事を通信したら新聞社では誤丁寧に直してダーリ二ウォ、ストークとしたダーリニイは遠いといふ形容詞でウォストークは東といふ名詞であるから是れは是非ともダーリニイとウォストークとの間で切ら無ければならないのにのは滑稽であつた▲又哈爾濱に居て或新聞に通信した時に同地方の地質を論じて腐植土と書いたら是れも腐蝕土と直してあつた腐植土とは植物の腐つて出來た土壤であつて已に學術上の成語と爲つて居るやうに或專門家から聞いて居たのに蝕の字に直したのは全く素人考で獨斷的改竄を行つたのである▲又北京からの通信に蒙古貿易を書いて口外貿易といふ字を用ゐた些と生意氣な書き方ではあつたが長城以北を口外といふとは支那に來ればもう普通一般に用ゐる詞なので自分もさう書いた所がチャンと國外と直してあつた勿論口と國とは字形が似て居るから誤植であつたかも知れぬが是れも口外では意味が分からぬと言つて勝手に直したものに違ひ無い盲斷的改竄の迷惑は翅に自分獨りのみで無いであらう（口口生）

●半面錄　凸坊の片影錄に倣ふて半面錄を書いて見ようか▲○○君は夜中搦手の進擊が巧みであるさうぢや▲○○君は何にかといふと直ぐキッスをやる▲○○君は梯子をやらねば腹の蟲が承知をせぬへベレケに爲る迄飮み廻る▲○○君はでれりとして居るので何時も財布を捲き上げられる▲○○君は極めて持てるやうに言ひ觸らすがそれは眞赤の嘘だよ▲○○君は何時も箒木を立てられる▲○○君は[illegible]はげしいさうぢや▲○○君は能く▲○○君は奴さんを持ち逃げせられて些け氣味のさうぢや（凹坊）

投書かご

▲料理店を打擊す　我輩は敢て料理屋征伐生の尻馬に乘るといふ譯でも無いが不心得至極なるは營口の料理店である既に料理店として看板を揭げて居る以上は內實の如何に拘らず單に酒を飮みに行く客も均しく客として待遇すべきは當然で無いか然るに營口の料理店は單に酒を飮みに行く者位は貴方が御客で御座るかといふ風で木で鼻括つたやうな無愛相な取扱をする第〇〇なんかの全盛の時と來たら實に無禮至極なとをやつたものだ自分も二三度怒つて歸つた一人であるが營口紳士の內でも冷遇せられて一時は第〇〇撲滅說を唱へたものであつた今でも小第〇〇は到る處にある酒を飮みに行けば五月蠅といふやうな顔付をする不心得も此に至ッて呆れるより外は無いではないか賭博のやうな火事場泥棒のやうなボロイ仕事で軍票をフカ〳〵さして居る阿呆鳥は何時迄も居るもので無いさういふ者を何時迄も大切の客だと思ふと飛んでも無い勘違ひが起るぞ今日の營口少くとも今後の營口は眞正なる軍人官吏實業家及び其他の純粹なる紳士に依つて營口の繁榮か保たるゝのである營口の骨子とも爲すべき其永久の顧客を粗末にした上に眼玉の飛び出る位に金を踏ンだくつて愛想をつかさるゝのは智慮ある料理店の爲す所で無い我輩は決して絲代を下げよとは言はぬ沈沒料を下げよとは言はぬ眞正の客を客として相當の待遇を拂へといふのである今こそは得意な料理店もあらうが得意な時代に氣が付かんで居ると遂には全く同情を失つて臍を嚙むも及ばぬ事に爲つて了ふぞ（竹槍席旗生）

●電報の間違（色男の嫉妬）　間違へば間違ふものだよ親が女郎買つて子が後生を願ふとは字餘り都々逸にある文句、それとこれとは異なれど玆に第三樓とか金城館とかよく聞き洩したれど何子とか云へる二〇三高地式の仇な三毛猫ありけり昨年秋以來當地の或る嚴めしき某所へ通勤遊す優男（名前はお預り）と未の未迄深くも契り居りたりしが兎角思ふに任せぬは浮世の常とやら、そこはいろ〳〵深き譯はれ因緣ありたる末、一先切れねば人の口長き別れにやせぬ程に必す浮氣をしちやならぬとか何とか二上文句宜敷ありて何子は一先鐵嶺に出稼する事となり某が宅二階の廣間にて誤夫婦別れの塲と云ふ色氣タップリの濡幕を演じたるを揚句何子は別れともない涙を後に殘こして心細くも鐵路を鐵嶺に到て堅いてとづくめは心に誓ひし所に着き其夜早速某に宛てイマブジツイタと云ふ電報を發せしが如何なる間違かその電報が某の元に着せし折にはイマフジヤイタとありければ唯さへ氣が氣でならぬ某はヤイタの一句氣にかゝりしものと見へ早速右電報を添へて鐵嶺なる何子が許に厭味澤山の文句を並べて山鳥の尾の長々敷き一丈餘の手紙を出せし由なるがツイタもヤイタもどうやら同じ事の樣にも解釋し得られていと可笑

小説

新作小説 おとし風（二十六）

徳田秋聲

光の耐え難き胸の悲痛を載せて、人力車はひた走りに走ッた。そして丘を一ツ廻ると、小御門村で一番高い樹の影も見えなくなッて、了ッた其の途すがらも、村の人等は、不思議さうな、そしてぶッ魂消た顔をして此の二臺の人力車を見送ッてゐた、雖然光は遂々健三の影を見なかッた。

それで光は、初旅の首途に於て、先づ其の所思が錯誤ッたと謂はなければならぬ。而してまた光の爲に盡さうといふ彼の巨漢の苦心も水の泡となッて了ッた。光の不運か、巨漢の不幸か。光は、彼の巨漢が何者であるかといふことすら知らなかッた。實のところ光は、健三と祖父樣に心を奪はれて、彼の巨漢のことは深く心に止めて、居らなかッた。

此くて人力車は、鷹の巣町の停車場へ着いた。此處に五分と休むでゐる暇も無く、光は合田の冷な硬ばッた手に引立てられて列車の二等室へ乘込むだ。

乘込むでからも、光は、滊車の窓から首を出して、万一とすると健三が追駈けて來て呉れはせぬかと待設けてゐた固より是も耐力の無い空想に過ぎなかッた。

間も無く車掌が笛を鳴らした。つゞいて、ぴゝぴと耳を劈くやうに滊笛が鳴ッた。途端に慌しく出札口へ駈付けて來た男がある。光は見るとも無く瞥と其の男を見ると何うやら、見覺がある其の筈だ！ 其の男は、昨夕共同墓地で逢ッた彼の巨漢である。

「おや！」

光は、不意に電光に眼を射られたやうに、ぎツくり胸を躁がせた。

「何んです、何うかしたんですか。」

と合田は尋常ならぬ光の樣子を見て取ッてつ。いと、起ッて窓のところへ來た、光の頭は合田の胸に押へられたやうになッた。

「何有！ 何んでもありません。」

ぽツ、ぽツと、二三度煙を吐く音がして、滊車は徐に動き出した。

彼の巨漢は、さも失望したやうに、さも殘念がッてゐるやうに、そして、さも當惑してゐるやうに、けろりとして出札口の前に突ッ立ッてゐた。

＊　＊　＊

光が、滊車に乘ッて、故郷の山を見失ッた時分。そして冷な旅の風を味はッて、滊車の窓に獨暗涙に咽んだ時分。

夕暗の光も消え、春の星淡く燦き、もう薄暗くなッた墓地の林の中に、健三は深い物思に沈みながら、獨淋しい春の暮を送ッてゐた。彼は、人目を避けて此處へ來たのであるから、尚だ誰からも光の出京に就いて聞くところが無かッた。彼は、光が尚だ小御門村にゐるものと信じてゐるのであッた。それで約束を守ッて、何時までも光を待ッてゐるのであッた。

「何うしたんだらう。此樣なに遲くなる筈は無いがな。客があッて急がしいから、手が拔けないのか。それにしても餘りゆッくりしてゐるぢやないか。」

一体他を待ッてゐるといふは永いものだ。而も健三の待ッてゐる永さには際限が無い。戀なればこそ。また秘密の手紙を渡さなければならぬ用事があればこそ、此うも根氣好く待ッてゐられるのである。併しやがて此の根氣も盡きて了ッた。

「何樣なことがあッても來ないといふ故は無い筈だが………　はてな。何か故障があッたのかな。」

そこで健三は、兎に角光の家へ行ッて見ることに定めた。蟲が知らすといふものか、何か光の一身上に非常な變動が起ッたやうにも思はれたので。

光の家へ來て見ると、何んだか家が寂然してゐる。まるで空家のやうに靜まり返ッてゐた。

「妙だな！ 何ヶ寝る刻限では無いのに、何うしたんだらう。」

●我輩は喰黨である下（下）

遼南逸人

我輩は自ら喰黨を標榜して出る位の喰黨であるから一通りの喰黨で無い朝、床の中で目が醒めると直ぐ考出すのは朝飯の事である朝飯ヶ濟めば晝飯晝飯が濟めば夕飯と云ふ具合に我腦中を間斷無く往來して居るものは常に食物である▲人は麵包を得るべく生活して居るものであるといふが自分は殊にさういふ感じが一層に深い自分ながらも恰も麵包の奴隷であるかの如く思つて居る併し我輩は我輩の境遇上一日の最大愉快といふのは何うしても食物より外に無いのである朝起るから夜寐る迄黄塵堆裏に出頭沒頭して眼に觀る物耳に聽く物一として我に美感と快感とを與へるものが無い無い結果として勢ひ滿身の嗜好を驅つて食物に集注せしむる平生から人に後くれを取らぬ喰黨が此境遇の爲めに營口に來てからは殊に甚しく爲つて今は殆ど食慾狂と迄に爲つたのである▲飲食の人は君子之を鄙とすといふが些と我田引水の方かは知れぬがそれは噓の皮の最も甚しいもので二十世紀の熟語字典からは是非に取除けらるべきものである石炭の汽車に於るが如く食物が人生活動の燃料若しくは原動力であるとすれば人間と食物問題とは決して離るべからさる最緊要問題であるのみならず極めて高尚なる問題の一ではあるまいか▲人は多く食物の話を下司な話だとするが自分は食物談程高潔なものは無いと思ふ麹に無いと思ふのみならず實際に於て食物談をやり若しくは食物談を聞くと一種言ふ可らさる美感と快感とを我腦裡に印影せしむるのである食物即ち御馳走は之を味はつて美味いとは言ふ迄も無いが自分は話を聽いた許りでも喰つたよりも尚美味く感ずることがあるのである勿論是れは喰黨の本色であらう▲併し我輩は喰黨は喰黨であるが大食官の方で無くて少食官の方であるので往々人に誤解せらるゝことがある君は喰黨だが細い方で都合がよいといふことを能く聽く併し我輩から言へば細いが故に或點に於ては極めて六ツケしいのである▲牛飲馬食をやる者は分量と時間との點許りでも食物上の慾望は十分に充たすとが出來るが我輩のやうに僅かの分量と僅かの時間とに於て人一倍の欲望を滿足せしめんとするには御馳走が何うしても十倍にも百倍にも美味く出來て居らなければならぬそれに分量を多量にやれば滋養分を吸收することも自ら多いであらうが少量であるので勢ひ多種類のものを要求すべき必要が起る是れが都合が好いやうで好くない我輩の道樂である併し營口のやうな田舎に於ては我輩の慾望は殆ど絶對的に滿足せしむるとが出來無いのであるから今は箸を一擲して最も上品な食物贅澤屋が最も不味い粗食に甘んじて居るのである

●骨董録

東京の青山と云へば江戸開市の昔より特に是れぞと指すべき歴史的若くは社會的紀念事件の無い所だ。強いて之を擧ぐれば彼の自殺を遂ぐる迄に娼婦の色に沈溺したる鈴木主水と云ふ痴漢の事蹟が彼のくどきと稱ふる一種鄙猥俗惡なる瞽女節に因りて最下流社會に謠はれた位のものである。されど這は是れ彼の菫とか星とかを歌ふ人々には多少同情されてこそすれ、風敎に關しては有害無益の事蹟なれば青山なる地の不名譽とこそなれ誇りとはならぬ、然るに十餘年前此地に共同墓地の設けありて以來、後世竹帛に名を垂るべき名士の永眠するもの尠からす、爲めに青山は俄に歴史的異彩を放つの地となつた。曩には軍神と迄崇められ壯烈鬼神を泣かしむべき廣瀨海軍中佐の靈魂を迎へ、近くは去る十日を以て忠義膽勇乃父に劣らず古烈士に恥ぢざるの行爲を爲して遂に殉國の鬼となりたる二青年士官乃木勝保兄弟の墓碑が建つた。抑も日露戰役に於て義勇奉公死を見ること歸するが如き態度を以て斃れたる我軍の勇將猛卒は萬は以て數ふる程である。然るに全國民が特り乃木氏兄弟の戰死を痛悼哀惜して措かず爲めに萬斛の涙を濺ぐ所以のものは何故であるか。是れは云ふ迄もなく乃木大將の忠誠廉潔なる子孫其餘慶を享有すべき筈なるに却て其嗣を絶つの一大不幸に遭遇せるに同情せると、且又當年紗たる二青年の戰死は全軍の士氣に多大なる鼓舞作振の動機を與へ爲めに圍陶軍の作戰を一層進捗せしめたるの効驗ありたるを國民皆確認せるとに因るのである。建久の昔曾我氏の二孤は青年の身を以て父の讐たる大敵工藤祐經を斃し身も亦之に死す、後ち青史野乘は二孤が復讐の事蹟を傳へて嘆稱措かず、今日我邦の田夫村童も五郎十郎の名を聞いて知らぬ者はない。されど曾我氏兄弟の所爲は一家の私怨を酬いたるに止り、國家に對して何等の功績があつたのではないが後世國民は寧等の至孝にして武勇絶倫なるを追慕し、之が爲に風敎上、更に適切に云へば輓近反り新參を以て世人に嘖々傳稱せらるゝ彼の武士道に影響する所の大なるは歿す可からざるの功である。今夫れ乃木氏兄弟を以て曾我氏兄弟に對照すれば、前者は其一死が國家に貢献する所の功績大なるを以て随つて國民の追慕崇敬の念も後者に比すれば一層功なるものあらん。されど予は暫く兩者の間に軒輊を立てず今より後、世の父兄たる者は須べからく乃木氏弟兄を以て孝悌勇武の標的とし曾我氏兄弟を以て義勇奉公の摸範とし彼の五月幟に五郎十郎の畫像を上ぼすと等しく勝保二氏の肖像を畫く杯の風俗を助長して幼兒少童に鼓吹する所あらば必ずや世道人心の向上に關し裨益する所少々ならざるべしと思ふのである。今や青山原頭鳥啼き花開き春光駘蕩たりと雖も彼の二基の墓前に立て勝保二氏の靈魄毅魄を憑弔する者誰れか當年遼東半島に於ける二氏の壯烈なる行動を追懷し同時に父翁將軍の膝下今日の寂寞を回想し坐ろに涕涙の沱滂たるを覺へざらん。自今而後二氏の墓前には涙痕の斑々たるもの永く絶る期なからん吁思へば悲壯感慨の窮みである。

廣告

告示

三月廿二日第四回懸賞捕鼠抽籤執行したる結果當籤番號左の如し

一、當籤者賞金受領に付左の通り心得可し

一、當籤者は四月五日迄に衛生局に至り當籤札と引替へ現金を受領す可し

二、四月五日を經過するも尚賞金受領の爲め衛生局に至らさるものは其當籤効力は消滅す

三、賞金額

一等　銀五十圓　二等　銀十圓

三等　銀二圓　四等　銀一圓

三月廿二日第四回抽籤懸賞捕鼠號章程列左

一、當籤者於四月初五日以前持原籤赴衛生局領賞過期其原籤即消廢無用

二、賞銀額

一等　銀五十圓　二等　銀十圓

三等　銀二圓　四等　銀一圓

第四回捕鼠抽籤當撰番號

一等	一五九三				
二等	一五八〇	二四七五	一七〇七	一四四一	一七二六
三等	二三四七	二三一七	一四四七	一四五〇	二二八九
	二〇九四	一七一三	一三八三	二〇八五	二二一〇
	二二九三	一八九七	一六五七	一七六八	一九九〇
	二一九五	二四二三	一九三六	二三九三	一七二〇
	二五一一	一三二八	一九〇九	二一四二	一九三〇
四等	二六五五	一七〇五	一三四五	一七四四	一二八三
	二五一七	二〇八三	二一六三	二二〇五	二四〇九
	一一九八	二四二二	二二八〇	一四〇〇	二五五九
	二六〇八	二一三六	二九二八	二一八一	一四九二
	二一八三	二五四二	一四七三	一三九二	二二四四
	二四六八	一六六六	二五九	一〇〇五	一五三八
	二一〇五	一六一九	一四九	二九二三	一〇五
	一三六〇	二一四九	二二二三	一六二二	一六四八
	二六〇二	二二〇七	二四八六	一九八〇	一五七五
	二六五三	一七四一	二五〇三	二四五八	二二九七

廣告

一生石灰　五千罐

入札保證金各自見積代價百分ノ五以上

右購買す入札望の者は本月十三日までに當署經理課に就き入札心得書、契約書案、見本熟覽の上同十五日午前十一時入札すべし即時開札す

此契約を營口軍政官輿倉喜平担任す

明治三十九年四月一日

營口軍政署

法律事務所の開始

生儀前ニ判事幷ニ地方法院長等の官職に歴任し及び辯護士の職務を行ひしこと多年今般民刑訴訟の代理刑事被告事件の辯護訴訟事件の鑑定契約書起案法律顧問等總て法律に關する諸般業務の依頼に應ず

營口永世街金城館南隣り

小林法律事務所

從七位勳六等　小林一生

○但し應接時間は午後四時限り夜分の面會は絶對に謝絶す

御旅館　豐陽館　上海（電話一〇六番）

日本郵船會社荷客取扱

歐米滊船乘船取扱

館主　米田藤吉

廣告

歯の衛生治療は一日も等閑に附すへからす然るに當營口に良歯科醫無きは予輩の最も遺憾とする所なるを以て今回二三有志相謀り目下天津佛租界に於て開業し内外人の信用を博せる歯科醫田添豐三君の出張治療を乞へるに快諾を得來月上旬より本埠マンデウリヤ、ハウスに於て約三週間許治療に從事せらるゝを以て歯患に艱やまるゝ諸君及び歯の衛生を重んせらるゝ諸君は此好機を逸せす續々治療を受けられんとを望む尚同君來營の期日は重ねて紙上に廣告すべし

三月三十日

營口有志者白

東營口郵便局東隣

●島田洋服店●

新民屯停車場前

●同　支店●

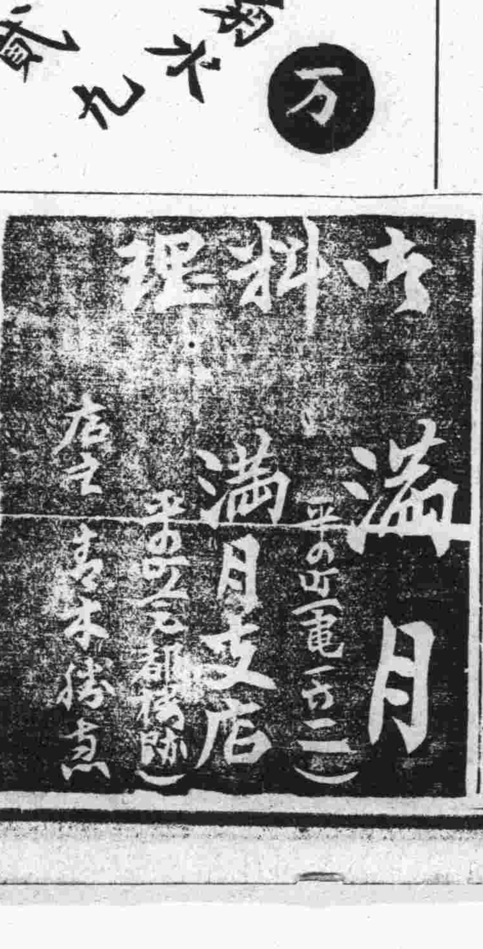
料理部開業披露

弊館是迄旅館專業に御座候處今般新に料理部を開設し聊か紳士諸君の御引立に報ひんと存候就て該座敷向き等も凡て改築仕日本式の粹を擬き藝妓仲居も弊店付とし内地より二十五名計り呼寄せ特に料理は東京有名の厨士を聘し材料に乏しき當地にては不可得珍味佳肴を供すべく一切の準備相整愈ゝ本日より安直を旨とし開業仕候間何卒賑々敷御來遊の程偏に奉希上候

追而料理部開業と共に旅館部にも改良を施し御客樣の御便利御計可申候間不相變御引立の程願上候

旅館　第一營口ホテル

料理　第一樓（電話八四）



森病院

一診察　自午前八時至正午十二時　自午後三時至午後五時

一往診　午後三時より

△姙者の入院治療を諾す

△貧困患者の施療は正午十二時より一時迄

遊孃の入院を諾す（取扱主任産婆大道しづ子）

院主　森　篤

醫長　鈴木昌平

營口永世街（電一五五番）

雜貨　すし　米
醬油　清酒　大樽 半樽
木炭

營口西北街
阪神組

獵銃彈新荷着
第八、第十、第十二號獵銃彈新荷到着廉價にて販賣致候間多少に拘はらず御注文被下度候
但貸賣一切御斷申候
ブッシ商會

CARTRIDGES.

We have just received a large assortment of Sporting Cartridges for 8, 10 & 12 bore Guns which we are prepared to supply at moderate prices, cash with order.

Apply to,
BUSH BROS.

本家 日本東京神田鍛冶町 堀内大藥房

淺田飴
あさだあめ

肺病喘息氣急傷風痰嗽小兒風積病後體弱肺病一切立見奇功
◎たんせき一切◎肺病の特藥◎ひきかぜ◎病後のよわり◎弱き人の滋藥

有名賣藥醫藥醫科器械卸小賣
永世街 東瀛大藥房
房主 藥劑師中馬龍造

Yano & Co.
矢野洋行
Telephone No. 137　電話一三七

諸雜貨、家道具類、吳服反物、蒲團類、婦人用小間物、下駄、足袋、食料品、其他種々

今回新荷着致候間直段ハ極安價を以て御用に可應候に付何卒多少に不拘御用命の程偏に奉願上候
謹言

發賣 材木 標子 木板
塩川商會
清國營口二本町二五五號
主任 鹽川峯吉（電話一三六番）
遼陽西門內 鹽川商會

●建築用材北海道産松大角（自廿五尺至三十尺）二万立方尺餘
外に電柱用材杉丸太長（自二十尺至三十尺）八千本
右之品多少に不拘特別安價を以て差上候條御入用の御方は御來臨被成下度候也

醇良自釀清酒

札幌ビール
朝日ビール
口付莨大和
酢 醬油 瓶詰樽詰
菓子 鑵詰 色々
洋酒類
右取次販賣
牛莊港東營口
宅合名會社
營口支店

大日本東京
本舖 山崎帝國堂葯房處修

腦丸
腦丸者天下唯一之腦病靈藥也腦病の名藥にして他に類なし

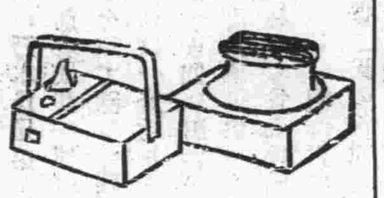
天授
天授者天下多多有咳嗽藥中之冠也たんせきねつさましの一切の妙藥

大清國
營口大街（永世街二本町）
藥司洋行 淺野爲三郎
福壽堂 大葯房 藥劑士
醫械藥材 有名靈藥
總發賣處
總批發處

大連市信濃町卅九號地
旅人宿 東館
特別ト親切ヲ旨トシ且ツ廉價ニ御取扱可申候

廣告
組台規約追加
組合員にして其内外を問はず妨害又は損害を加へられたる時は其旨事務所に届出べし此の場合に於て事務所は直に役員の審議に付し果して届出に相違なきときは之れを新聞紙上に廣告すると同時に組合一般に報告す組合員は其者と取引をなす事を得ず
右今般組合總會の決議に因り追加條項として相加へ候條及廣告候也
年月日
營口材木商組合

御手輕料理
一釜飯　御一人前　五十錢より
一卷壽し　一本　十五錢より
一湯豆腐　一壺　廿五錢より
一東京壽し　一人前　卅五錢より
右之外御誂に應す



月日
營口元神廟街二〇九號
翁亭

大日本政府特定
官製口付紙捲煙草
滿洲一手輸入發賣
營口元神廟街四十號第二號
江副洋行
營口永世街

石材、碎石
並に自家製造
瓦、煉瓦
廉價販賣
營口西北街
順吉洋行

官製口付莨、文房具
和洋酒類
罐詰、菓子
藥品、雜貨
白米
醬油瓶樽詰
防寒具、安價販賣
卸商
（十一）
豐生洋行
（電話十三番）

軍隊用雜貨
日用品雜貨
吳服太物類
化粧品類
陶器類
食料品類
卸小賣
其外新荷着精々安價販賣
營口永世街七十號（第二市場東）
石原商店

萬事勉强乘車乘船好位置
營口中央市場前
旅館 東京樓
店主 熊田兼次郎（電話百七十八番）

卽席和洋料理 東京樓支店（電話四十四番）
西洋料理仕出し御需に應ず

鐵嶺 西門外大通
御旅館
御料理
福屋

質屋營業
精々勉强御便宜相計り可申上候間多少に不拘御仰付け被下度願上候
營口南永世街憲第三十六號
北斗洋行質屋部

和洋會席御料理
一弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に造附且又會費等は特に割引大勉强仕候
營口永世街二本町
日本館（電話百三十）
各位樣

時刻

唐山至天津	上六、二二	上一一、二八
塘沽至北京	上六、〇〇	下一二、〇六
天津至北京	上一二、〇〇	下五、二〇
山海關至北京	上八、〇〇	下六、四五
天津至唐山	上一一、四二	下五、一七
天津至山海關	上六、二五	下六、二一
唐山至山海關	上六、〇〇	上一一、五八
山海關至營口	上七、〇五	下四、五五
溝邦子至新民屯	上三、〇〇	下六、五七

宮門抄

初三日
吏部　翰林院　正黃旗值日　吏部引見六十九名　値年旗十名
肅王假滿請安　山西知府翁斌孫謝恩　劉元弼李春溥預備召見
召見軍機　翁斌孫　劉元弼　李春溥
政務處遞封奏一件

奏議

戶部奏議覆粵省息借洋款摺

奏爲遵　旨併案議覆恭摺仰祈　聖鑒事據署兩廣總督岑春煊奏粵省籌辦要政需款孔亟擬息借洋款以資興舉一摺光緒三十一年十二月十九日奉　硃批戶部議奏欽此又據電奏擬借洋款舉辦要政一摺於十二月二十五日奉　旨岑春煊奏擬借洋款舉辦要政等語仍著戶部議奏欽此先後由軍機處抄交前來查原奏內稱云云（原奏全文已登正月初六日本報增刊內故從略）又據電奏整理粵省財政擬借洋款一千萬兩專辦地方生利之事尤以路政爲最急業經專摺奏陳惟鐵路急需興築待款孔殷因復酌擬官款公款集股三項辦法亦已奏報粵省庫儲萬窘民力亦屬艱難所有各處籌捐出於萬不得已原以塡回股票路成按股分息與商人集股營業無異今旣橫生阻碍事敗垂成而此路爲粵湘鄂三省權利所關實有不能不辦之勢如前奏擬借洋款均蒙　俞允即可舉辦一切生利要政路款藉資轉輸不必盡資民力伏乞　聖慈特旨允准　飭部立案各等語臣等伏思中國甲午以前所借洋債不盡關於賠款亦欲規行要政爲富强久遠之謀乃事旣無成虧累已盈千萬迨東洋馬關之約各國聯軍之和强鄰索償輒增鉅債而新舊子母併計幾居一歲財賦之半遂致竭蹶不遑則此時有所經營惟當量力而動非可貿然以從事也且外洋所謂國債亦商民借助爲多即不得已而貸諸鄰實合全國通籌以執政者擇其消息豈若中國各分行省疆吏自理其財財不足而舉債於人猶是內顧一隅之計焉得以國債例之今署兩廣總督岑春煊乃以粵省籌辦要政擬息借洋款一千萬以資興舉等因具奏臣等伏思地方生利之事誠不可視爲緩圖但以借款舉行則各省皆未敢輕議倘於一省開其端情勢頗嫌偏重與大局諸多窒碍未便率行照准況粵省本非瘠土地利人力皆足以資開拓原奏固已言之若必待息借洋款始能興舉要政譬猶富家　落　用漸以不供而廣田日荒不屑以絲粟爲積累竊竊然稱貸豪强將經商以逐利初不必喪失貲本乃奇贏未睹追逋已踵於門其不以園宅署券者幾希所謂驚虛名而處實禍也又借款至一千萬洋行斷難輕諾先以何款作抵後以某項歸還均尚虛懸無着即使息輕期遠而此二十年中以四五釐計息每年還本之數當亦不下百萬主其要政所舉雖銀行及保險公司隨時可以興辦然華洋各商林立非粵省所能專利若鐵路鑛務官紙局自來水等項又非經年累月所能告厥成功是其創辦之初每年先增百萬之還款所得未必償所費也方今時勢所迫不能不變法自强即籌款之爲難盡人亦當相諒乃必以千萬之貲冒舉恐難確有把握倘不幸取快一時遺他日無窮之患恐疆臣不能當此重咎至電奏以路政爲最急聞贖回粵漢鐵路本該省紳商所願則用款自應就地求之如直隸之辦公債票不逾年勸集四百八十萬民情帖然相安而粵爲嶺海名區不容自棄得賢有司善爲經理卽獲借款一半之數似地方各要政不難次第推行以視息借洋債利權終於外溢者較勝萬萬臣部權衡財政實不得不鄭重於其間也所有併案遵議緣由謹恭摺覆陳伏乞
皇太后　皇上聖鑒謹　奏奉　旨依議欽此

東京電報

●**日皇儲啓程**　日皇儲爲親臨生駒艦進水式定於西四月一日由東京搭火車赴吳軍港云

●**青木欽使赴美**　駐美日本大使靑木君定於西三月三十一日由橫濱埠　美云

●**伊國皇藩到日本**　伊國皇藩已於西三月二十九日到日本定於西四月一日晉京云

●**參列觀兵式員之盛況**　此次在日本青山之凱旋大觀兵式爲前代未曾有之盛典聞是日中韓兩國特派武員叅列其式外有香港安南東京七眞韮等處亦各派人前往云（以上西三月三十日發）

中外要聞

●**中俄協議近耗**　中俄會議協約各情業經隨時誌報現聞中俄全權日下開會所議者係中國要求三款一撤退滿洲俄兵縮短日期一俄國賠償中國公私損失及俄國佔領營口代收關稅釐金七十萬兩云

●**俄國擬特派皇親**　探聞俄國皇帝爲重修日俄舊時親交起見擬欽派該國至高之親王一員前赴日本尚飭該親王偕同該國海陸元帥提督等數員此事果眞卽日本亦當欽派親王大官若干員以行答聘云

●**擬編商務雜誌**　商部以現在各省一切商務均已次第講求亟宜刊印書籍以資比較現擬派定司員將各省興辦之實業商業等事隨時記載編撰成書名曰商務雜誌以便商界之研究

●**礦師勘蒙旗礦**　聞土默特蒙旗貝子擬開採該旗五金礦產現已聘荷蘭國礦師前往勘驗礦苗如何再行招股開辦

●**藏商議定稅椀**　西藏辦事大臣有泰來電已飭布商人與唐古特人在江孜抽收糧稅轇轕一案現經堪布喇嘛調停議定木椀式仍照乾隆年舊式嗣後不得任意增大以恤商艱兩造已平和作結

●**吉黑紳商運動保持利權**　俄國之垂涎黑吉兩省有由來已久非一朝一夕之故此次俄國於日俄條約舉奉省利權胥歸于中日兩國遂專力于該兩省孜孜經營不遺餘力如兩省官紳不速設法抵制則路礦等權將來必盡歸于俄國把握矣該兩省紳商有見於此月前集議凡吉黑兩省所有一切鐵路鑛產捕魚木植等權皆擬由兩省紳商籌款開辦不借洋款以抵制俄人奢望一面公舉代表人卽行啓程晉京向外商兩部磋商辦法一面電致外商兩部署云俄國固勿論已其餘無論何國如向鈞部邀求此等利權請堅持力爭勿聽其請以保利權等語聞外商兩部均頗韙之俟兩省代表者來京妥爲商搉公舉名望最孚之幹員爲兩省路礦總理以專責成云蓋近來保全利權之運動各省皆然期達目的頗可爲我國前途額手慶矣但保全利權之事易言難行如無有的款徒堤倡保全利權之說吏易致外人之誤會轉貽誤于大局矣黑吉兩省諸紳尚其勉旃

雜報

●**奔女尋回**　埠東崔家席坊有居民劉某家道小康執醫爲業一妻一妾其妾生女年十六未字丰姿綽約同院有少年崔二者家貧貌美女注意焉遂與崔有桑中之約割臂之盟崔央媒求聘劉不允崔與女謀乘間逝出劉知之投埠署鳴狀軍憲派巡查偵緝時於金家屯胥里劉家訪獲崔知預遁乃將該女仝胥里劉某到案責劉不應窩逃飭　醫將女領回聞該女矢死靡他實自由結婚之起點也

●**逸賊破案**　埠有內省流民張姓者貧而嗜賭爲西街曲巷雛妓看守空室對屋有一老叟亦爲某妓看屋積有手票百元被張窺悉今正十八夜張由隣家入搜去手票而遁其叟鳴官備案有[illegible]作苦役之巡查楊某與張相識見張由河東來甘言誘入署中會茗相款暗禀憲兵將張拘獲傳雛妓到案質證張一鞫卽服相傳不日必將處決斯亦大網恢恢疏而不漏云

●**証言被累**　埠內有臨榆人張金山者素習鑲裱業慣乘自行車與遠來洋行一倪姓印度人相善常相往善前月張邀其友徐某者訪於倪酒後乘倪自行洋車回家誤將附車之電氣洋燈碰壞張自愧請於倪將燈持回該鋪許與修理轉求素相善之日人爲之証言己物希友善情面廉其工値不意此灯乃該日人原物前被竊外有表及財物等件向張進究張乃失措遂轉告倪倪向該日人力言其灯買自華人日人以張所言前後不符疑其求倪代爲解釋愈怒爲向軍署呈控拘張繫押或曰張之被累由其自取也証言者宜知所警矣

●**河北駁來諸貨**　昨日河北汽車由新民屯運來豆千袋包駁過八百餘件豆餅兩萬餘片駁於河中[illegible]裝輪船又由秦隍島運來洋綫四百餘捆肥豬八十餘口俱駁往河南云

叢談

●**逗平新機之發明**　機輪一種自重學發明以來百餘年間亦已屢變始爲明輪繼爲暗輪皆支配於水汽時代者而近日又得一種名曰逗平新機輪超出明輪暗輪之上其出也亦適於電氣時代蓋電水之靈捷較蒸水之汽勝之甚遠今新機輪之製出者其總數有八十萬匹馬力英國某廠之定造者又有二十五萬匹馬力別有一艦已用新機輪作工有五萬匹馬力小者六千五百匹馬力以後或能更大於此數其機之善在佔地不多無爆裂之險無震撼之患而速率更大千八百九十七年英君后維多利亞之金剛節期爲第一次試驗時各國砲船集於奧斯奔行宮外用逗平新機輪之船特繞各砲船一周每小時行卅四海里半（三海里合中國拾里）

●**能減炭氣之酒精燈**　巴黎化學報云用酒精燈所發之熱在夏季亦不甚大故極爲相宜因酒精燈化出炭氣頗少曾用加熱法試驗查酒精一百克耶姆（法國權名合中國二分六釐四毫六絲六忽八微四纖）祇能化炭氣一百六十三克耶姆每石油一百克耶姆能化成炭養氣三百十二克耶姆故用酒精燈能少變壞空氣

NEWCHWANG, SUNDAY, APRIL 1, 1906.

A Kindness That Is Not Wasted.—(Part IV.)

Our Shanghai elder the "Shanghai Times" quotes from the "Eastern Times" in its issue on the 9th ult.: "Mr. Uchida, the Japanese Minister to Peking, has entered a complaint with the Wai Wu Pu to the effect that certain parties in Canton and *other places*" (all over China?) "have issued expresses that *exclude* Japanese from China." A similar statement appeared in almost every paper in North China about that time, leaving little room for doubt as to the actuality of the complaint made.

Now, Canton is looked upon as the very centre of the Boycott movement, which even has been also imputed repeatedly to Japanese instigation by another senior the "Chefoo Daily News" apparently associated with the Editorial Genius by sympathy. That, capable, on one hand, of influencing the solid bodies of local gentries and guilds into this gigantic agitation and also, as his own dear theme runs, into the anti-foreign movement, the same Japanese are, in their turn, told to quit the country without ceremony!

Such an idea of most incongruous combination can be tenable only in an unsound mind.

We will now flit back into the vast Yangtzekiang Valley. The gifted Editor must have chuckled with delight at finding a champion in no less a personage than Bishop Graves of Shanghai. In the issue on the 19th ult. the reverend Bishop is quoted to have said, in the course of a speech "at the annual meeting of the 'Diffusion Society' there a few days *before*, in deliberate accusation against Japanese of promoting revolution in China: 'A revolutionary movement is agitating China and it is promoted and fostered by a *certain class of work*, which the Japanese are translating and circulating in China. It is not only the newspapers of Shanghai, but pamphlets are being poured and disseminated all over the Empire.'"

According to the issue of our esteemed contemporary the "China Times" in the 28th ult., "by Imperial Decree, Expectant Taotai Liang Meng Ting, Director of the Imperial Railways of North China, has been appointed Customs Taotai of Newchwang with the brevet rank of Provisional Judge of Fengtien, vice Weng Tsang transferred. He is an able and methodical business man and his success in his important new position may be regarded as assured in advance," which high opinion and confidence in his future success are as sincerely shared by us with all his acquantances.

While joining his numerous Chinese and foreign friends in warmly congratulating the popular Taotai himself on his well-deserved promotion, at the same time, we wish no less hearty joy of the port of Newchwang for the prospect of welcoming as its executive an official of such rare administrative ability, ripe experience, and extensive knowledge, when the Japanese Administration steps out of power.

Rev. Mr. Thos. Fulton who had been home on furlough came to the port by sea last Wednesday and is stopping with Rev. Mr. Carsou waiting for the approaching arrival of Mrs. Fulton, upon which they will proceed north to Mukden to resume their work there.

Rev. Mr. A. Crawford residing at present at Mukden was expected to be here yesterday to meet his family shortly due at the port. Mrs. Young was also thought to have come down by the same train.

We understand that Dr. Muir and his family, five in all, left Kaiyuan on the 30th inst. for Newchwang on their way to England on leave.

Another public auction by Mr. Cook is forthcoming to-morrow (Monday) at the usual hour of 11 a.m., at the auction room east of Messrs. Bush Bros.' godown and stable. The varied articles to be offered for sale are 1 cooking stove in good condition, 1 rattan table, 3 rattan lounges, 3 rattan chairs, 1 filter, 1 shower bath, 1 oil stove, 2 camp chairs, 1 saddle and bridle, 110 doz. net singlets, 9 doz. and 4 cotton underdrawers, 38 boxes of cigars, 500 red blankets, 11 clocks, 100 cases of whisky, 10 cases of condensed milk, 4 rolls of silk, and 1 case of cooking butter.

Only samples of milk, wines, and blankets are on view at the auction room. Owing to some mistakes previously experienced, purchasers are requested to take delivery of the goods direct from the warehouse, with the sanction and in presence of the auctioneer.

一、…引換書御送附ニ相成レハ…立換ヘ…
一、…保管可申候
市場北三階樓
時計店ノ二階
宮原公司

軍政署官舍東カルソン師邸內
日本人基督教會堂

輕便鐵道附屬鑛工
土木建築用鐵材料
其外鑄物諸般
定商門會街東
喜場

豫報

昨日の氣溫
最高溫度五十四度〇　昨年との比 高十三度九
最低溫度三十四度二　高三度九

營口旅館料理店案内（いろは順）

旅館 **第一營口ホテル** 元神廟街九十六號（電話八四番）

料理 旅館 **第二營口ホテル** 河岸通り

料理 **第三樓** 元神廟街三十二號（話電七九番）店主 粕屋忠兵衛

料理 **入船亭** 永世街百八十三號 谷初次郎

旅館 **日營ホテル** 河岸通り 店主 井上源吉

料理 **東京館** 永世街八十六號 店主 村上京四郎

旅館 **東茂旅館** 西北街百七十三號 正金銀行西三程

料理 **千鳥** 元神廟街百三十三號 店主 吉住善藏

料理 **沖の島** 永世街百六十五號 店主 中川彌三郎

料理 **吉野亭** 永世街八十六號 店主 坪田正好

旅館 料理 **高砂ホテル 高砂亭** 西北街 店主 片山小みつ（電話一四五番）

旅館 **竹村館** 永世街二十二號（電話五一）店主 麻田久二

旅館 **大和館** 永世街三十四號 店主 前田九一郎

料理 **滿洲樓** 南永世街第十號 店主 直塚勝一

料理 **萬梅** 豊濟門街第百〇四號 店主 田島彌助

料理 **まんなをし** 永世街字二本町二百五十九号 元吉田屋跡 店主 和田常松

東京 **生蕎麥** 一式 **東庵** 元神廟（電話百五十九）

旅館 料理 **金城ホテル** 永世街百六十六號 **第二金城ホテル** 永世街百六十六號 店主 齋藤富次郎

料理 旅館 **醉花園 澁谷旅館** 永世街百二十七號 店主 澁田留吉

料理 **喜樂亭** 營口元神廟街

旅館 **東雲旅館** 永世街七號 店主 谷口今朝太郎

營口軍政署 御用旅館 **東雲** 主任 谷口今朝太郎

さるそば **第一更科** 營口元神廟街
さるそば **第二更科** 永世街鶴の湯角

御料理 **柳亭** 叮嚀專一 豊濟門街二三 店主 玉岡益人

御料理 並ニ溫泉 **一力** 毎日新湯 營口永世街 店主 堀万助

和洋料理 本店 **松月亭** 營口元神廟街一四三号

和洋料理 御旅館 支店 **滿洲ホテル** 遼陽西街西門一一七号

遼陽旅館料理屋案内

旅館料理業 **營口ホテル支店** 主任 井上源吉

御料理 會席 **菊水館** 主任 朝枝園挹

旅館 西洋料理 **遼陽館** 主任 永瀬宇吉

旅館 料理業 **公陽館** 主任 宮川秀基

御料理 會席 **末廣屋** 主任 山根初之亟

御料理 色々應御注文 **凱旋亭** 主任 古谷庄太郎

旅館 御料理 **遼塔ホテル** 主任 木村常吉

遼陽兵站司令部指定ホテル **遼陽倶樂部** 營口東雲館支店 主任 谷口今朝太郎

會席 **玉家** 主任 西野治三郎

御料理 會席 **來々亭** 主任 石田清

一和洋御料理 **遼東館** 遼陽城内東街

本館は遼陽城内第一繁盛の地にあり内外人往來頻繁なり今般四方紳士諸君の御勧に依り宏荘美麗なる日本風の家屋を新築致し一百人以上の宴會等も出來得べく廣間も御座候に付ては續々御光來被成下度花客諸彥に對し親切叮嚀を旨とするは弊館の特色に御座候

奉天旅館料理屋案内

旅館 **奉天館** 奉天城内鐘樓南大街 奉天軍政署指定旅館（電話一五）

和洋御料理 **日清倶樂部** 奉天大南門裡大街（電話一四）

商人御定宿 **瑞豊館** 奉天小西關大街北側 館主 河野嘉吉（電話 號）

會席御料理 高等御旅館 **天神樓** 奉天小西關大街北側（電話 號）

旅館料理店 **日の出樓** 奉天小西門通（元紅葉館跡）溫泉付大勉强キレーデヲイシヒ 樓主 大瀬七造（電話十七號）

旅館料理店 **日盛館** 奉天小西關大街南側 館主 入江熊男（電話 號）

旅館 料理店 **梅松館** 奉天城内鼓市街東華門宮殿東側 館主 押尾富次郎（電話 號）

旅館料理店 **大和館** 奉天大西關高臺子廟前 館主 今井コノ

旅館 **大正館** 奉天小西邊門外十間房道北側 館主 大草村行
奉天に於ける日本風新築家屋は弊館より外に無之特に夏期御宿泊には最も適すべき様に相成居候間御投宿の節至極便宜に御取扱可申上候以上

御旅館料理 **高砂館本店** 奉天十間房第十五號
高砂館支店 **奉高館** 奉天城外廿四 店主 宇木智平

旅館料理店 **日奉館** 奉天小西門外大街 館主 原田清五郎

高等旅館 **東洋館** 奉天大西門外小什字街（電話號）主任 藤島初野

御料理 **梅ケ枝** 奉天小西門より一丁西の辻北入 館主 辻井ムメ

旅館料理店 **勉强館** 奉天小西關外北長發園隣

撫順炭大販賣 多少に不拘御用命被仰付度願上候 **金城館販賣部**

特別室落成 營口金城ホテル **旅館部**

會席御料理 **金城館**

奉天小西門外 會席御料理 高等御旅館 **金城館**

一關内外蘆漢鉄道貨物運輸 但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ヘ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候
一海關手續 但弊店事務所及郵船會社代理店内派出員ニテ
一鈔關手續
一船舶貨物取扱 但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱
一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業
右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候
營口西北街第二七二號 **大清通運公司營口支店**

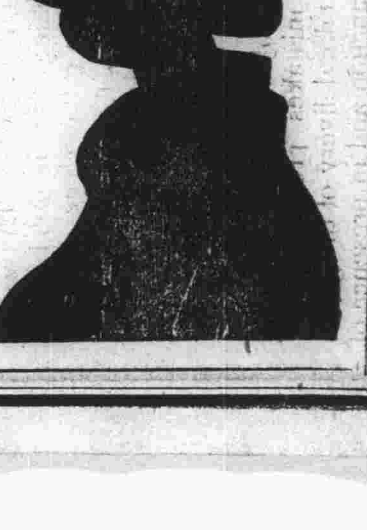
旅館料理屋に對する酒肴料其他不拂の御方は此際御拂込み相成度萬一督促再三に及ぶも尚ほ不拂の御方は其姓名を掲げ新聞紙を以て請求可仕候間豫め御承知相成度右は同業者協議の上及廣告候也
營口旅館料理屋同業組合

歐米各國最新流行形 **西海洋服店** 永世街一四一（森病院三軒目）（電話百二十七號）

爲替相場（三月三十一日）
日本向 一百圓二十五錢（軍票百圓に付）
上海向 七十一兩二十五錢（同）
天津向 一百〇二圓五十錢（百弗に付）

日本品最近物價表 加藤洋行
紙類 一半紙 一〆 二圓九十錢より三圓廿錢
一美濃紙 一〆 七圓五十錢
一全 狀袋 二十枚綴 三錢二厘以上四錢 百枚 十三錢以上十八錢
室内装飾品及寢具 矢野洋行
蒲團 三枚組 六圓九十錢以上六十五圓
座ブトン 十枚組 六圓五十錢以上二十五圓
一疊 薄縁 二圓六十錢以上三圓
麻緞通 十枚 八圓
綿緞通 一疊敷 三圓
一全 三圓五十錢

新着の御知らせ
東京より
蜂印香竄葡萄酒、羊羹、味付海苔、旅行用トランク、手提鞄、御婦人足袋、謄寫版、眞筆版、コツピープレス等
其他
雛立印白酒、寄木細工、漆器、陶器、金屏風等夫れ〳〵産地より着荷仕り候
新到
各種皮包、皮箱、文具格、畫掛、畫漆茶机、畫漆茶盤、金漆畫屏、金漆鏡臺、眞筆版、謄寫版、極上麝香水、蜂牌香竄葡萄酒、
營口 **加藤洋行**（電話八十番）



弊局土木建築材料品の各産地と特約を結び廉價を以て多少に不拘賣却仕候間御引立の程奉希上候
一北海道産松大角材外種々
一石灰、石材、敷石、碎石、煉瓦等
一日本石炭數種
飯塚工程局材料部 營口元神廟前（電話百三十五番）

○上等石炭 一噸に付 銀十六圓
○上等日本米 一石に付 銀二十圓
○板材木 ○木炭
○亞鉛板 ○洋釘
○干擴魚 ○石灰
卸小賣致候間御用の御方は御通知次第直に持參可仕候也
喜久洋行 永世街八十號（電話百五十二番）

大連 **東洋ホテル** 大連鐵道停場附近民政署前兒玉町

標子 木板 料木 發賣
營口青堆子 **清水寧木局**（電話九十四番）

故沖禎介 追悼の爲め江湖諸賢より玉梓して一の紀念帖と爲したる詩歌書を編集上より通知有之候就ては其紙數を一葉にても多からしめ以て存亡父子共の光榮を大ならしめ度く存候間廣く江湖の同情を得度廣告候也
一、紙判は美濃紙大
一、刻版は四月中に取かゝる事と存候
一、沖莊藏在沖繩縣那覇地方裁判所官舍
御問合の件わらは左に
新民府 奈良崎八郎
營口瀛華學院 上野政則
大清通運公司 安田貞藏
同志友人 敬白

大阪商船會社 荷客取扱所
内外 **船舶代理店** 船舶貸借仲立
水陸輸送貨物 輸出入稅關手續 諸品委托賣買 艀船人夫 大連搬請負 倉庫業
右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候瀛船御乘船之御方樣は御一報次第切符持參仕候尙御手廻り貨物持運ヒ等當店送り組ニ御用向仰付被下候へ迅速確實ニ御取扱可申上候
西北街 **德重洋行**

MANCHURIA DAILY REPORT.
Subscription 4 cts. a copy
80 cts. per month.
$2.30 per 3 months.
本紙定價 一枚ニ付 銀四仙 一ケ月前金 銀八十仙 一ケ年前金 四弗八十仙 銀九弗六十仙